

池田正 帝京大学医学部附属病院 外科教授

東京都板橋区加賀 2-11-1 電話 03-3964-1211



＜累積手術数(個人)＞乳癌約 2,000 例。

＜年間手術数(個人)＞乳癌約 130 例。

＜科の特色＞患者さんの立場に立った診療を心がけている。具体的には、①外来の予約が電話でできる。②女医を中心にスタッフを揃えている。③乳癌の疑いのある患者さんはなるべく早く(約1週間)検査結果をお話する。④乳癌の場合には徹底的に検査を行い、進行度に応じて世界標準に合わせた適切な治療を行う。⑤再発乳癌に対しては種々の治療法を提示し、患者さんが納得のいくような治療法を相談して決定している。⑥チーム医療に立脚し、腫瘍内科、形成外科等と連携している。なお、最近では患者さんの利便性も考慮して、腫瘍径の小さい乳癌に対しては1泊2日での手術も行っている。術後の病理検索も丹念に行い、集学的治療方針決定の根拠としている。

＜科の症例数・治療・成績＞★症例数＝10年の乳腺外科の症例数は、乳癌150例。内訳は、病期0とⅠの早期癌が64例(43%)、病期Ⅱ81例(54%)、病期Ⅲ4例(2%)、病期Ⅳ1例(1%)である★治療＝病期Ⅱまでの乳癌に対しては、乳房温存治療を標準治療と考えて施行している。乳房温存治療が行えない症例に対しては、胸筋温存乳房切除術を施行している。臨床的にリンパ節転移を認めない症例に対しては、センチネルリンパ節生検を施行し、リンパ節転移がなければ郭清を省略している。このようにすることにより、美容的にも機能的にも必要最低限の侵襲で済むようにしている★病期Ⅱb以上の症例に対しては、まず化学療法を行い、感受性の確認をし、腫瘍を縮小させてから手術を行う。術後は必要に応じて放射線療法、化学療法、ホルモン療法を行っている。これらは外来治療を原則とするが、入院を希望される方には入院治療も行っている。抗癌剤の場合には、副作用を抑える薬を十分に併用している★成績＝5年無再発生存率は、病期0:100%、Ⅰ:93%、Ⅱ:89%、Ⅲ:71%となっている。

＜外来診療＞受付＝乳腺外来:火午前午後・水午後・木午前。池田＝火午前午後・水午後。初診の方は、紹介状をお持ちの上、電話で診療予約を取られた方がスムーズに診察が受けられます。

＜セカンドオピニオンの受け方＞検査データと診療情報提供書(紹介状)を用意し、外科外来に電話をして予約する。

＜略歴＞1950年京都府生まれ。慶應義塾高等学校卒。74年慶應義塾大学医学部卒。同大学

外科入局。81年栃木県立がんセンター外科医長。86年慶應義塾大学外科助手。96年同講師。05年同助教授。06年帝京大学外科教授。

＜所属学会・資格＞日本外科学会(指導医・認定医)、日本乳癌学会(理事長・理事・評議員・専門医・認定医)、日本臨床外科学会(評議員)、日本内分泌外科学会(評議員)、日本癌治療学会(理事・臨床腫瘍専門医)、日本消化器外科学会、American Society of Clinical Oncology(米国癌治療学会)、医学博士。

＜著書・編集書・論文＞今日の治療指針「乳癌」、乳癌の手術「乳房扇状部分切除術」、乳腺外科の要点と盲点「針生検」など。英文論文 91 編、和文論文 309 編。

＜手術に際して心がけている点＞①癌をできる限り完全に取りきること②進行度に合った手術を行うこと③創口は必要最小限にすること。

＜診療中に心がけている点＞①患者さんが納得するように説明すること②不安を与えないこと。

＜名医の条件＞エビデンス(根拠)をよく理解し、かつ個々の状況に応じて匙加減できること。患者さんが納得いくように説明できること。

＜趣味＞ゴルフ、旅行。

＜私の健康法＞早足で歩く。疲れが溜まってきたら、睡眠を十分にとる。

＜もし医師でなかったら・・・＞パイロット。